

もしもに備える

# 5/26 水防訓練



もしもに備え土のうを作成

**水** 害が起こったとき、地域で協力し対処することも必要です。そのような場面での協力体制を確認するため、町では毎年、水防訓練を実施しています。今年の訓練では、各区で水害および土砂災害の危険箇所の点検を行い、その後、三滝川北側河川敷へ移動

し「土のう作成、運搬訓練」と土のうを越水危険箇所に積む「改良積み土のう工法訓練」を行いました。区長や区民、応急対策業務協定締結事業者、消防団、町職員など410名が参加し、洪水の恐れがある水路や土のう作成の手順などを確認しました。この訓練で作成された土のうは各区へ持ち帰り、洪水災害などの有事の際に利用されます。

## 6月 令和元年度 補正予算

**歳** 入歳出にそれぞれ1億6493万円を追加する一般会計補正予算(案)が6月議会に提案されました。今回の補正は、骨格予算として編成を行った令和元年度当初予算に政策的経費の増額計上等を行ったもので、予算総額としては131億9283万円としています。

### 中学校給食事業

2,400万円

教育課

中学校において、令和元年12月(予定)からデリバリーによる学校給食と弁当との選択方式を採用し、給食を希望する生徒に対して、栄養バランスの良い昼食を提供します。

### 子ども医療費対象者拡大事業

500万円

住民課

中学生の子ども医療費の対象について、令和2年4月(予定)から現行の保護者の所得基準を児童扶養手当基準未満から児童手当基準未満に拡大することで、広く子育て世代を支援します。

## 主要な予算を「PICK UP」

大羽根テニスコート整備事業 設計委託 教育課 700万円	流行性耳下腺炎および季節性インフルエンザ予防接種費用助成事業 子ども家庭課 2,092万円	有害鳥獣対策事業 観光産業課 100万円	菰野富士観光名所づくり事業 観光産業課 3,200万円	シネマツーリズム推進事業 観光産業課 150万円	海外観光産業プロモーション事業 観光産業課 160万円
---------------------------------------	---	----------------------------	-----------------------------------	--------------------------------	-----------------------------------

### 6月 4日 特別消防訓練を実施



訓練の最後に工場へ向かって一斉放水を行う様子

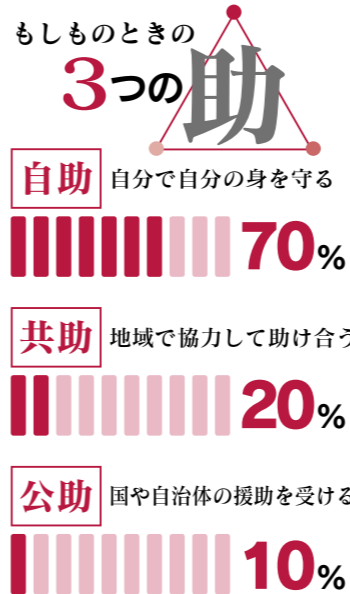
**危** 険物安全週間に伴う特別消防訓練が大和ハウス工業株式会社三重工場で実施されました。これは6月2日から8日までの危険物安全週間に合わせて、消防団員の火災対応技術および連携活動能力の向上と危険物を取り扱う事業所の自主保安体制の確立を図るものです。訓練には同社従業員、消防署、消防団竹永分団と本部分団など約60名が参加しました。従業員の初期消火活動や負傷者の救出活動のほか、最後には放水訓練が行われ、実際の火災現場を想定した緊張感のある訓練となりました。

### 6月 2日 けやきフェスタ 2019



フィナーレで空へ一斉に舞い上がるピンク色と白色の風船

**け** やきフェスタ 2019 が保健福祉センターけやきで開催されました。今年度のテーマは「このまちがすきだから」で、福祉ゾーンや保健ゾーンなど趣向を凝らしたブースに多くの方が来場して賑わっていました。来場者は手話を用いたコミュニケーションや車いす体験、声で情報を伝える音訳ボランティアの活動などを体験し、障がいに対する理解を深めていました。イベントの最後では、来場者が音楽に合わせてメッセージ付き風船を一斉に飛ばし、盛大なフィナーレを迎えました。



### 改良積み土のう工法の手順



- 1 土を詰める** 2人1組で土のう袋に土を詰める
- 2 土のうを搬送** バケツリレーの要領で土のうを運搬
- 3 土のうを積む** 土のうの向きに注意しながら積み上げる
- 4 完成** ブルーシートで覆って完成



### 簡易水防工法

水を入れたごみ袋を水のうとして利用し、段ボールやビニール袋と組み合わせ、浸水を防ぐ

### 菰野町防災マップ更新予定

令和元年度に菰野町防災マップの更新を行います。土砂災害警戒マップや洪水浸水想定区域図などを踏まえ、避難の必要がある地域や各避難所などが明記される予定です。

Next update ▶▶▶ 今年度更新予定

**災** 害が起こったとき、行政が行う「公助」には限界があります。そこで必要になるのは、「自助」と「共助」です。自分が暮らしている区域ではどのような被害が想定されるのかを今回の機会に確認し、どのように行動するかを想定しておくだけで、被害を軽減させることができ、助かる命があります。自分の命は自分で守る。「自助」に基づいた災害対策をまずは住民一人ひとりが実践してください。そして、もしものときに助け合うことができるのは、近隣住民の皆さんです。協力できる体制を構築し、「共助」の大切さを共有し、備えましょう。

「自助」と「共助」が重要